

# 夢追い人

## 二十のブランド立ち上げを目標

失敗しても、次に成功すればいい

関家具(株)

代表取締役社長 関 文彦さん



左からベガサスビル本社、クラッシュ・クラッシュショールーム

今回は、大川で最も元気な企業の一つ、(株)関家具にスポットをあてる。ダンディなた

たずまいと笑顔で迎えてくださった社長、関さんにお話をお聞きました。

(株)関家具は、商品企画、生産、販売、卸、小売りまで行う。昨年の家具卸商売上高で全国四〇〇社中第五位。創業四十年間赤字なしの優良企業である。売上高は約八十一億円。家具販売が低迷する中、今期十%の売り上げアップを挙げている。会社の特色は、若さがあること。会社全体で平均は実に二十八歳、幹部職員の平均三十七歳。たとえば、専務三十四歳、常務四十四歳、営業本部長三十三歳...という具合である。今年新たに大卒八名、

高卒十一名の従業員が加わっている。従業員総数は約一四〇名である。

創業当時の様子を関さんに聞いてみた。「学生時代に貯めたお金でトラック一台購入し、起業しました」。当時は資金もノウハウもなかったそうだ。でもこだわった指針があった。なんだろうか?それは現金取引。「朝メーカーから仕入れて、日中に販売店に現金で販売し、夜にメーカーに現金で支払うやり方でした。手形取引が大勢を占める中、現金だから、販売店もメーカーも取引してくれたんですね。」こうして徐々に発展を遂げてきた。

現在の企業スタンスは、お客様満足、働く社員の満足を実現しながら、生まれ育った産地大川への貢献を果たすこと。

その目的意識を持って関さんは、二十のブランド立ち上げを目標している」と言われる。一ブランドで五億から十億円、二十ブランド全体で一〇〇億円の売り上げを目指している。そしてブランドごとの事業部





クラッシュ・クラッシュプロジェクトのショールーム  
旧伝習館高校の校舎の部材を一部使用している



リラックスフォーム

制や別会社も視野に入れてい  
る。「家具業界の市場は三兆  
六〇〇億円です。無限の可能  
性があります。まだまだ伸びる

余地がありますよ。夢は大きく  
一〇〇億円を目指したいです  
ね。」と、にこやかに話される。  
会社の成長のため、関さんは  
若い社員から上がってくる視点・  
発想を重視する。「社長！こ  
んなことしたいのです！と言わ  
れると胸がワクワクしますね。  
どんどんプレゼンしてほしいで  
すよ。方向性が間違っていない  
なら、やり方は自由、どんな  
任せることにしています。すべ  
て成功してほしいが、失敗して  
もいい。次に成功すればよいの  
です。責任はすべて社長の私が  
取ります。このやり方は従業員  
の自己実現、やりがいにもつな  
がるのではないのでしょうか。」

昨年十一月十四日、建築・  
デザイン系大学卒四年目の社員  
が中心になって「クラッシュユ  
というブランドを立ち上げた。  
関家具ベガサビル東側建物の  
二棟をクラッシュ・クラッシュ  
ユプロジェクトのショールーム  
にしている。ここではエルモ、  
グラス、イージーライフ、キン  
グバイスという異質のブランド  
がしのぎを削っている。ちなみ  
に「エルモ」は、ニレの古材を  
使ったブランド。「グラス」は  
シーグラス系のソファをトータ  
ル化したもので、「イージーラ  
イフ」は、ナラを使ったシリ  
ーズ。「キングバイス」はアンテ  
ィーク調のソファシリーズ。「ク  
ラッシュプロジェクトのショ  
ールームは、これらの異質なブラ  
ンドと開発担当者同士がぶつ

り合い、クラッシュユしあう、  
それでいて、全体がハーモ  
ニーを奏でる、魅力的な空  
間になっていると思います  
ね。」

昨年立ち上げた別のブラ  
ンドは、「リラックスフォー  
ーム」。大手販売店で随分  
採用されて、年商六億円の  
ブランドに成長している。  
他に主力のブランドとし  
ては、高機能オフィスチェ  
アの「エルゴヒューマン」、  
インポート家具の「センバ  
ラベッド」などがある。

来年に向け今準備を進め  
ている施設がある。それに  
は深い思い入れがある。何だろ  
うか？「大川デザインミュージ  
アム」の建設である。専門家二  
名、ハウステデザイナー五名が  
中心になって準備を進めてい  
る。「大川には市外のお客様が  
見学できる家具の博物館があ  
りません。それで、そういう施  
設を造りたいと思っています。  
日本一の家具産地大川のシン  
ボルになればと願っています。  
三〇〇〇㎡ぐらいのスペース。  
もちろん売り場もあります。」  
完成すれば大変興味深い施設  
になる。

関さんはボランティアにも  
熱心だ。古賀記念館や大川市内  
の幼稚園、保育園にサクラの苗  
木を寄付している。「今後一万  
本を提供する予定です。」とい  
われる。また最近では、風浪宮  
の灯籠施設に資金面で協力。



イージーライフ

また福岡県の「子育て支援宣  
言企業」に三十八番目に登録。  
社員の子育て、PTA活動など  
の参加を積極的に支援している。  
また社員の消防団活動も公休  
扱いにしている。消防団  
員として過去に常務が十  
年間。そして現在三名の  
社員が活動中。

さて、インタビュ  
の終わり頃、社長室にメソ  
ポタミアの文字、くさび  
形文字が刻まれた土器が  
飾ってあった。そこで趣  
味を聞いてみた。「海外  
の文化や人々に触れるこ  
と」だそう。シルクロ  
ードの会会員で、周辺の  
三十七カ国を訪問してき  
た。シリア、イラク、パ  
キスタン、ネパール、イ  
ンドス川流域などなど。



センバラベッド

飾られていた土器はイラクで発  
掘されたものだそう。またブ  
ラジルと友好・交流を図る「ア  
マゾンの会」にもはいつている。  
そこで、こういう質問をぶつ  
けてみた。「今まで一番印象深  
かった地域はどこですか？」し  
ばし考えた後、こう言われた。  
「モーセが十戒を授かったとき  
れるシナイ山、そして死海、キ  
リストが処刑されたエルサレム、  
ユダヤ教徒の聖地、嘆きの壁」  
ですね。荘厳な雰囲気にとっても感  
動しましたね。「これには同じ  
商人として「地上最強の商人」  
と言われるユダヤ人に対する尊  
敬の気持ちもあるようだ。  
ダイナミックな事業展開とボ  
ランティア、そして海外の文化  
に触れること。関さんの一生懸  
命さと気概が伝わるインタビュ  
ーであった。